C—14 着用時の布の変形におよぼす裏布の効果について

鳥取大教育　伊藤紀子　○清水裕子　矢田玲子

目的　一般に衣服には装身性能，保健性能，形態安定性能を向上する目的で裏布がとりつけられる。スラックスにおいても紳士用，婦人用いずれの場合にも前身に裏布を取りつけることがある。このスラックスに取りつけられた裏布は，屈曲の大きい膝部においてすべり効果を増し，その結果裏布を取りつけない場合より着心地がよく，膝抜けの現象も少ないと考えられている。そこで本研究では，スラックスに裏布を取りつけた場合，衣服着用動作時の衣服のすべり，衣服変形量がどのように変化するか検討した。

方法　試料として表布に織物構造をとるもの2種，編物構造をとるもの1種をとりあげ，裏布にはレーヨン平織物を使用した。実験用スラックスは衣服のゆとり量や被服材料を異にした裏つきスラックスを9枚製作し，着用実験により衣服のすべり，および衣服変形量を測定し，裏なしスラックスに生じた衣服変形量および変形領域との違いを検討した。

結果　衣服のすべりは，各部位のゆとり量が多く，しかも表布との比較においてよりすべり易い裏布を取りつけたスラックスにおいて大きいことがわかった。そしてゆとり量が少なくしかも表布に近似した摩擦係数の裏布を使用した場合，衣服のすべりは減少することが認められた。着用動作時，伸長変形およびせん断変形にみられる衣服変形は，すべりやすい裏布を取りつけることによって膝上部への衣服の移動が増し，大腿部での衣服変形量を減少する反面，下腿部からの拘束によって膝部の衣服変形量を増大する傾向が認められた。